

東北食農連携ネット

“FACNeT”

東北ハイテク研究会



No.8 (2017.8)

東北食農連携ネット“FACNeT”第8号をお届けします。

第8号では、6月29日に開催されました東北地域農林水産・食品ハイテク研究会第24会総会での決議、審議結果の概要をお知らせします。

平成28年度事業報告・決算報告について

知的財産の技術移転加速化事業及び産学連携支援事業に関して東北ハイテク研の取り組みとして特筆出来るのは、多様なセミナー・勉強会を開催して、東北地域における開発技術の普及と産学連携の動きを生み出している点にあります。以下は、セミナー・勉強会のテーマを一覧表にしたものです。多様なテーマが選択されていることがわかります。

日時	テーマ	参加者数
6月14日	花巻で薬草栽培を考えてみませんか	26名
7月6日	東北ハイテク研究会平成28年度記念講演会「耕作放棄地対策を考えるー牛に任せるのも一法ー	43名
7月14日	活力ある東北農業を創造するためのセミナー「農業経営者・食品産業経営者・研究者の集い」	38名
8月25日	岩手県における水田作の生産性向上の工夫と地域作物の生産加工販売を考える	27名
8月31日	岩手町での薬草栽培の現状と現地視察	12名
10月26日	クッキングトマトの普及拡大と商品開発を考える	40名
10月27日	ダイズ「貴まる」研究会 現地視察	8名
11月5日	日本食のグローバル展開を考える	94名
12月10日	岩泉町の農業の現状と新しい農業創造への提案	15名
1月26日	ダイズ「高まる」勉強会	40名

また、農林水産省主催の「アグリビジネス創出フェア2016」(東京ビッグサイト)に参加し、東北地域の産学連携に関わる研究成果、商品の展示を行いました。さらに、民間企業などに対する訪問相談85研、面談22研、メール・電話相談28件に対応するとともに、研究資金等の取得支援11課題等の活動を行っています。

平成28年度の研究会事業と委託費事業の連結決算は、以下の通りです。

<収入>			単位:円
区分	予算額(A)	決算額(B)	差引額(B-A)
研究会事業	1,018,053	977,761	△40,292
委託費事業	8,100,360	8,100,360	0
合計	9,118,413	9,078,121	△40,292
<支出>			
研究会事業	1,018,053	347,442	△670,611
委託費事業	8,100,360	8,100,360	0
合計	9,118,413	8,447,802	△670,611

平成 29 年度事業計画・収支予算

平成 29 年度の知的財産の技術移転加速化事業及び産学連携支援事業に関しては、特に次の活動に重点を置いて推進することが了承されました。

1) 農林水産・食品分野の高度な専門的知見を有するコーディネータを配置して、研究開発・事業化・商品化のシーズ・ニーズの発掘を行うため、本年度から新たに深澤守（青森県・農産物輸出）、小沢亙（山形県：産学連携）、平尾正之（神奈川県：農産物マーケティング）の3名の方々に専門方コーディネータをお願いしました。

2) 知的財産の技術移転加速化に関しては、吉永国際特許事務所長の吉永貴之氏に知財マネジメントの啓蒙活動のための講演・相談会をお願いすることを計画しています。

3) セミナー、勉強会については、その効果が目に見える形で現れるように、さらに工夫をしながら取り組みをおこないます。

4) 会員サービスを拡大するとともに、多くの方々に東北ハイテク研の活動をPRするため、ホームページの改良とタイムリーな情報の発信を行うと共に、ニュースレターを頻繁に発行して会員サービスの充実をはかります。

なお、以上の平成 29 年度の活動を支える事業予算は、以下の通りです。

<収入>		単位:円
区分	予算額	
研究会事業	1,146,351	
委託費事業	8,823,320	
合計	9,969,671	
<支出>		
研究会事業	1,146,351	
委託費事業	8,823,320	
合計	9,969,671	

会員の状況と役員の変更

規約の改正について

会費，入会金について，以下のように総会で承認されました。

改 正 案	現 行
(会費) 第10条 正会員の会費（公立試験研究機関、学校、市町村等公的機関は負担金）は、1口につき1万円とする。 <u>ただし、個人会員については、1口につき3千円とする。</u>	(会費) 第10条 正会員の会費（公立試験研究機関、学校、市町村等公的機関は負担金）は、1口につき1万円とする。
(入会金) 第12条 正会員は入会金（入会負担金）として5千円を納入するものとする。ただし、 <u>個人会員並びに賛助会員から正会員になるときは、これを免除する。</u>	(入会金) 第12条 正会員は入会金（入会負担金）として5千円を納入するものとする。ただし、賛助会員から正会員になるときは、これを免除する。

現在の会員数とその動きです。

	22年7月	23年7月	24年7月	25年7月	26年7月	27年6月	28年6月	29年6月
研究会正会員	69	66	66	61	57	58	54	53
うち個人会員	5	5	4	4	2	2	2	2
研究会賛助会員	24	23	23	23	23	22	21	20

役員の変更について

役員2名の交代（人事異動）があり、総会で承認されました。

役 職	改 選 後 (案)	改 選 前
幹 事	長瀬 勝彦（ながせ かつひこ） （株）日本政策金融公庫 農林水産事業本部 東北地区統轄	豊田 浩司（とよだ こうじ） （株）日本政策金融公庫 農林水産事業本部 東北地区統轄
幹 事	住田 弘一（すみだ ひろかず） 国立研究開発法人 農研機構東北農業研究センター 所長	石黒 潔（いしぐろ きよし） 国立研究開発法人 農研機構東北農業研究センター 所長

*現在の東北地域農林水産・食品ハイテク研究会役員は、以下の通りです。

- 会長 宮澤 陽夫 東北大学大学院農学研究科教授
- 幹事 坪田 康信 (株)一ノ蔵執行役員・商品開発室長
- 幹事 西川 正純 宮城大学 食産業学部教授
- ◎ 幹事 長瀬 勝彦 (株)日本政策金融公庫 農林水産事業本部
東北地区統轄
- ◎ 幹事 住田 弘一 国立研究開発法人
農研機構東北農業研究センター所長
- 監事 小島 俊夫 宮城県農林水産部次長 (技術担当)

農林水産省産学連携支援事業コーディネータ (東北地域)

平成29年6月現在の東北地域の農林水産省産学連携支援事業コーディネータとその専門分野は以下の通りですので、相談したい事項があれば東北ハイテク研事務局まで、ご連絡ください。

○中核型コーディネータ (2名)

氏名	所属 (経歴)	専門分野
門間 敏幸	東北地域農林水産・食品ハイテク研究会 事務局長 東京農業大学名誉教授	農業経営、農村計画、 6次産業化、農商工連携
星野 次汪	岩手大学名誉教授	作物育種、農業技術

○専門型コーディネータ (17名)

氏名	所属 (経歴)	専門分野
酒井 眞次	農研機構フェロー 元 農研機構中央農業研究センター 関東東海総合研究部長	大豆全般(育種、栽培、加工)、 大豆食品の普及
野呂 治	元 文部科学省産学官連携コーディネータ	地域資源利活用、マッチング、技術移転、知的財産、企画(営業、販促、商品開発等)、創業・新規事業創出支援(産学官連携全般)
齊藤 博之	(株)サイエンススタッフ技術顧問 元 (地独)岩手県工業技術センター 副理事長	土壌・肥料、醸造、放射線被害対策、産学官連携
梨木 守	(一社)日本草地畜産種子協会 放牧アドバイザー 元 農研機構 畜産草地研究所 草地研究監	草地、畜産全般

氏名	所 属 (経歴)	専門分野
佐川 了	岩手大学 嘱託教授	作物栽培学、雑草学
小川 薫	岩手大学 研究推進機構 プロジェクト推進部門 准教授	有機化学
秋山 美展	秋田県立大学 生物資源科学部 応用生物科学科 教授	地産地消型新商品開発 食品製造技術, 機能性食品
矢治 幸夫	秋田県立大学 生物資源科学部附属フイ ールド教育研究センター 教授	農業機械 作業技術
片平 光彦	山形大学 農学部 食料生命環境学科 准教授	農業機械 作業技術
田村有希博	全国農業協同組合連合会 東北営農資材事業所 技術主管	土壌肥料
桑田 彰	福島県産業振興センター技術支援部地域 連携サブコーディネーター 元 福島県ハイテクプラザ副所長	醸造、発酵、食品
荒川 市郎	全国農業協同組合連合会福島県本部営農 企画部 農業技術センター 技術常任参与	作物、農業工学、農業情報
深澤 守	(一社) 青森県リンゴ輸出協会 事務局長	農産物・食品海外輸出
小沢 互	山形大学農学部 教授	農村計画、地域資源管理
平尾 正之	元 東京農業大学教授 元 国立研究開発法人 中央水産研究所 経営経済部長	農産物マーケティング
藤井 孝咲	東北ハイテク研究会 事務局次長	産学連携
松井 孝正	東北ハイテク研究会 事務局	産学連携